実行委員長ごあいさつ

阪神・淡路大震災から間も無く四半世紀を迎えることになりました。1999年の第1回から数えると、今回は第22回目のウォークになります。

これまで、新たな被災地からも含め、延べ1万人を超える方々が参加し、復旧復興の進行や被災生活の変化を目にし、語り部の被災体験に耳を傾けてきました。コースの長田は、最も被災の大きかった地区です。復興でないとわからないこと、歩くことでしか気づけないことがあると感じています。案内人も語り部も、それぞれの26年に想いを込めて語ります。

ゴールのふたば学舎では、暖かい朝汁が復活してお待ちしています。今年も皆さまとこの節目の時間を共にすることができることを嬉しく思います。

こうべ！ウォーク2020 実行委員会
実行委員長　野崎 陽一

しみん基金・KOBEごあいさつ

「こうべ！ウォーク2020」へご参加誠にありがとうございます。

「しみん基金・KOBE」は、25年前の阪神・淡路大震災からの復興のプロセスにおける教訓から、市民による自発的な助け合い活動を市民自らが支える日本初の市民ファンドとして誕生しました。以来20年間で延べ199団体に総額約6,960万円を助成し、地域における支え合いの源泉を掘み出してきました。これからも、「神」を創り繋いでいくことが、当基金の使命と考えています。頂きました募金は、篤志を預いて当基金へ寄付され、毎年実施している助成事業を通じて、様々な分野の市民活動団体へ助成させて頂きます。

今後とも、何卒ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ
理事長　虎 正博

⑭せせらぎ―まちづくり協議会の提案を受けて整備を進めてきたもので、高取山の湧水を利用している。せせらぎの流れる歩道にはベンチを設置しており、市民が集う憩いの場となっている。

⑮シューズプラザ⑪―震災から長田のケミカルシューズ産業の復興と靴のまちながたの活性化を目指し、『シューズの元気は、神戸の元気だ！』をキャッチコピーに誕生。各種シューズ展や企画展を実施している。

⑯アジアギャラリー神戸―アジア雑貨の店が集まる商業ビル。約3千人のアジア系外国人が住む長田で、アジアとの共生をテーマにした中核施設として2000年7月にオープンした。

⑰水笠通公園―地域の防災公園（長田駅北地区震災復興土地区画整理事業）としての役割を持ち、「100t防火水槽」が整備され、宇宙の道のりを次代に伝えるために「震災復興の碑」が建立された。

⑱新長田駅北区画整理地区―震災前は、産業・業務施設やケミカルシューズ（戦後急速に進展し、靴底、標布、靴紐穴などが、地域内の分業でなされていた。）等の工場と混在する形で狭小住宅等が立地する住商工混在地域であったが、今回の地震で約3割の建物が大きな被害を受けた。
震災後は、そうした分業体制も解体したが、今も靴紐の穴にめる「ハトメ」の看板や、裁断、造をつくる縫製機物の工場などが残っており、自動車の下請けなど多様な仕事を続けている。東に行くと右手にアシックス（青い建物）も見かける。

⑲大国公園―震災による火災の延焼を防ぎ、地区の人々の避難所となった。保護した鳥居の石を使った記念像、震災直後の街の様子をステンレス板のプレートに焼付けた「協働のモニュメント」、「復興の誓碑点」がある。

⑳蓮池東区画整理地区―震災前は、商店街と軍前基盤等の利便性の高い住宅地だったが、今回の地震ではほぼすべての建物が焼失という大きな被害を受けた。

㉑カトリックたかとり教会⑫―多くのボランティアの拠点となった教会。震災で焼失したが、2007年4月に再建された。「ペーパードームたかとり」は台湾に移設された。NPO法人たかとりコミュニティセンターが多文化共生の拠点となり多くのNPOが活動している。

㉒海運橋子池公園―復興区画整理事業の中でいちはやく開設した公園。地域住民が主体となって計画案をとりまとめた。

㉓野田北部まちづくり協議会―1999年3月の「コミュニティ宣言」後、まちづくりの機動をハードからソフトへ移行し、地域ネットワーク組織「野田北ふるさとネット」を創設。（目にみえる）活動と（ひとづくり・神間づくり・生活づくり）の思想で（分かりやすいまちづくり）を目指している。

㉔若葉公園―震災復興区画整理事業で整備された街区公園。住民の意見で道路を挟んで2つの公園が隣接する。道路を閉鎖すると一体化して大きく使える。頻繁に防災訓練が行われ、地域の防災拠点になっている。

㉕日吉町ポケットパーク「あわせの地蔵」―防災公園にある地蔵堂に、震災による火災で黒焦げとなった3体の石地蔵と、仏教ボランティア大阪から寄贈された木彫りの「あわせの地蔵」がお祭りされている。

㉖若松公園と鉄人28号―次項の新長田駅南再開発事業として、防災拠点とするために若松公園が大きく整備されている。公園内には、横山光輝氏の代表作の一つである「鉄人28号」が、体長18mという超ビッグサイズの鋼鉄製モニュメントとして2009年9月に設置された。

㉗新長田駅南再開発地区―震災により甚大な被害を受けた市街地の復興と防災公園等を中心とした防災拠点の構築、地域の活性化や居住心にふさわしい都市機能の整備を図るために実施され約8割が完成。未入居の商店が残っている。

㉘「鉄魂と復興のベンチ」（神戸の壁）地下通路―若松町の公園所蔵の防火樹は、神戸大空襲と大震災の火災に耐え、歴史の証人として「神戸の樹」と呼ばれ震災の象徴となった。再開発事業で移転が決まり、地中の基礎部分が樹子の形にデザインされ、「アスタくにづか」の地下通路に展示されている。

㉙大正新商店街―9割の店が全焼し壊滅的な被害を受けた。モダンな商店街として再建され、大正新商店街らしい人情あふれるイベントが各種開催されている。大正時代の生活空間である土間と居間を再現した「大正ハイカラ復歩住夢亭」が開設された。

㉚新湊川・・・震災後、多くのボランティアグループが川沿い公園に拠点をおき活動した。その後、2度にわたって川が氾濫したが、2000年に新湊川シネルが改修された。

㉛新湊東・西区画整理地区―震災前は軍前基盤が残り市場・商店街や家内工業を中心とした中小規模の工場が立地する利便性の高い住宅地だったが地震で8～9割の建物が大きな被害を受けた。

㉜古民家を移築した集会所―春住町（現春海町）に建てられていた古民家を移築して作られた御屋通5・6・7丁目自治会集会所。御屋地区の住民たちの交流を深める場となっている。

㉝御屋南公園―震災時、火災のひろがりを防ぎ、公園内に避難した人を火災から守ったクスノキがある。震災時は10mあったが、焼けたその上部を切り取って8～8.5mとなっている。

㉞御屋北公園―地域の方々で整備した公園で、この地域の120人が亡くなった場所を示す地図が刻まれている「銘板」のモニュメントが設置され、焼け残った電信柱が保存されている。

㉟共同住宅「みくらら」⑬―12件が集まって建てた共同住宅。1階の地元企業の協力による「地域コミュニティスペース・プラザ5」を拠点に、まち・コミュニケーションはまちづくり活動を展開している。

㊱地域人材支援センター（旧二葉小学校）⑭―1929年に建設され、戦災・震災を乗り越えた地域のシンボルである旧二葉小学校が、NPO法人ふたばを指定管理者として、市民の地域活動への参加支援や地域活性化を担う人材育成の拠点として活用されている。震災関連の展示や神戸の古い写真アーカイブもある。

㊲震災ミュージアム―震災で芽生えた助け合いの心をいつまでもとどめ、防災知識の普及啓発に努める場所として、また震災の記憶・体験・教訓を伝える拠点として整備された。

㊳KOBE鉄人三国志ギャラリー―観光客に街を回遊してもらおうと2009年12月にオープン。鉄人28号の製作映像の上映や、三国志に登場する軍師・諸葛孔明の等身大オブジェを展示している。

㊴六間道商店街―かつては神戸有数の繁華街だったが、周辺企業が撤退し大震災もあって店舗が減少した。「六間道お百度マイル」の取り組みや、横山光輝氏（「鉄人28号」の作者）の漫画を飾る常設展示会場「六間道なごみサロン」、三国志をテーマにした新名所「鉄武将廊」がある。

㊵丸五市場⑮―80年以上の歴史を誇り、伝統の仕入や加工・販売技術を持つ、こだわり専門店が多い。アジア系食品や物品を扱う店もあり、他の市場にない楽しい買い物の場だと評されている。昔ながらの下町の人情と温もりが残る市場。

㊶本町新商店街―震災で多くの店舗が倒壊したが、「ビッグハート」をシンボルとして、ふれあいコンサートや長田こなもんまつり、陶芸教室・絵付け教室などのイベントを多数実施している。修学旅行生対象の絵手紙教室も好評。

㊷神戸協同病院⑯―震災では献身的に夜中まで診療にあたり、震災後の復興には地域住民と一緒にまちづくりに参加してきた。地域から頼られる存在になることを理念として、地域住民とコミュニケーションをとり、病院という枠を超えて地域のまちづくりに力を入れている。